



生駒市立上中学校

校長室だより

第11号 令和8年3月2日

校長 眞井 英司

奈良県生駒市上町 3000 番地

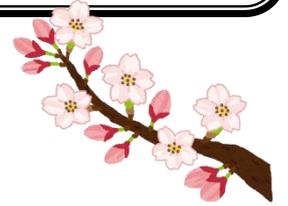
3月は結びの月です。

早咲きの梅がほころび、春の足音が聞こえてくるようになりました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、この1年間、本校の教育活動に多大なるご理解とご支援を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

いよいよ令和7年度も、残すところあと1ヶ月となりました。3月という月は、今のクラス、今の仲間と過ごす「最後の時間」を慈しむ、1年間の締めくくりの月です。

今、3年生の教室からは、卒業式の練習に励む声や、進路決定に向けて真剣に机に向かう熱気が伝わってきます。中学校の3年間は、人生という長い道のりで見ればほんの一瞬かもしれません。しかし、心も体も大きく揺れ動き、悩み、葛藤したこの3年間で得たものは、決して色褪せることのない一生の宝物です。友と笑い合った何気ない昼休み、部活動で流した悔し涙、そして自分という人間を見つめ直した時間。その一つひとつが、皆さんという人間を形作る確かな土台となりました。卒業式は、単なる「別れの儀式」ではありません。義務教育という大きな守りの中から一步外へ、自らの意志で歩み出すための「決意の儀式」です。残された数日間、どうか隣にいる友の存在を、そして支えてくれた家族の思いを、改めて噛み締めてほしいと願っています。

そして、1・2年生の皆さん。先輩たちの背中、今、皆さんの目にどう映っているのでしょうか。3年生が校門を後にしたその瞬間から、この学校の伝統と活気をつなぐ「見えないバトン」は、皆さんに託されます。それは、誰かに言われて引き継ぐものではなく、皆さんが自ら「次は自分たちの番だ」と顔を上げた時に、初めて受け取れるものです。先輩たちが築いてくれた土壌に、皆さんはどんな花を咲かせるのか。その自覚こそが、皆さんの表情をより逞しく、大人へと変えていくはずですよ。



3月は、よくパズルのピースに例えられます。どれほど立派な絵が描かれていても、最後の一片が欠けていては、完成とは呼べません。この一年間、私たちが共に描いてきた物語を、美しく、誇らしいものとして完成させるために。そして、四月の新しいスタートへ向けて、心の大掃除をするために。最後の日まで、一日一日を丁寧に、心を込めて過ごしていきましょう。皆さんの晴れやかな笑顔が、この学び舎に満ち溢れる年度末になることを、切に願っています。

3・11を忘れない

2011年3月11日に東日本大震災が起こってから、今年で15年を迎えます。年を追うごとに当時の記憶は社会全体で薄れがちですが、皆さんにだけは、決して無関心であってほしくないと思います。スイッチを入れれば電気がつく、蛇口を開ければ水が出る、そして、学校で当たり前のように仲間と学ぶことができる。私たちがつい見失ってしまう「日常の有り難さ」を、今一度見つめ直す日にしてほしいのです。先日実施した地域の方々による防災学習を思い出し、今の自分たちが大切にすべきことは何か、自分たちにできる備えとは何かを、改めて語り合ってみてください。



保護者の皆様へ

先日は学校評価アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。学校運営協議会において皆様からの貴重な声を総括いたしました。昨年度との比較データや、本校の重点目標に対する振り返りを本校ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。3学期も残りわずかとなりました。お子様が最後まで安心して学校生活を送り、自信を持って次年度へ進めるよう、職員一同努めてまいります。ご家庭でお気づきの点やご心配なことがあれば、いつでもお気軽に学校までご連絡ください。